

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1575500531
法人名	社会福祉法人 中越老人福祉協会
事業所名	グループホームかめさんの家
所在地	新潟県三島郡出雲崎町船橋479番地2 (電 話) 0258 - 78 - 2896

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日

【情報提供票より】(20 年 12 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人、非常勤 2 人、常勤換算 6.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	☐ 有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☐ 有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	☐ 有 ☐ 無
食材料費	朝食 ー 円	昼食 ー 円	
	夕食 ー 円	おやつ ー 円	
	または1日あたり	800 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 12 月現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院、磯部医院、本間歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山里の小高い丘の上に、「グループホームかめさんの家」はある。周囲には農家や旧家が点在し、眼下に水田が広がるのどかな環境である。木造平屋建ての和風作りのホームは、静かな落ち着きがあり、この地域の環境に溶け込んでいる。同社会福祉法人が経営するデイサービスセンターが隣接し、出雲崎町の福祉ゾーンの一部を担っている。敷地が広く、利用者が自由に安心して散歩ができ、天気の良い日は利用者と職員が散歩する姿がみられる。春から秋にかけては里代言う社と職員と一緒に畑仕事を行っており、玄関前の畑にはネギや大根が収穫を待っている。また、たくわん、梅干、笹団子作りなどを、季節に合わせて利用者、職員と一緒に手作りしている。室内は、リビングテーブル、こたつスペース、ソファスペースなど、過ごしやすい場所を利用者がそれぞれ自由に選んで過ごすことができるようになっている。来客に対しても利用者、職員がともに笑顔で迎えてくれ、利用者、職員と一緒に仲良くなるのびのび暮らしている様子が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 法人理事、管理者、職員はサービス評価について十分に話し合い、サービスの向上のために評価結果を真摯に受け止め、具体的な改善に取り組んだ。「職員を育てる取り組み」として、近隣のグループホームと職員の交換研修などを取り入れ、意見交換や良い気づきを得る場となり、職員の育成に役立っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が職員に対して自己評価の意義や目的などを伝え、職員自身に自己評価を行ってもらった。課題や取り組んでいきたい内容を意見交換し、管理者が整理してホームとしての自己評価にまとめた。この過程により、ホームの現在の課題や目標が明確になった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、事業内容や行事、利用者の状況などについて報告している。また、外部評価の結果や具体的な改善取り組みの状況などについて委員に報告し、意見交換を行っている。家族や地域の方々の立場から様々な意見を頂き、ホームのサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 職員の氏名や顔写真を紹介したカードや意見箱を玄関先に設置し、家族が意見や苦情をより言いやすくなるような環境作りに努めている。苦情や意見は、真摯に受け止め、職員皆で原因を話し合い、改善すべきことは積極的に改善していくよう努め、ホームの運営に役立てている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは、地域の住宅地から少し離れた場所にあるが、ホームを夏休みのラジオ体操の会場に提供したり、冬の犀の神やお祭りなどの地域行事にも積極的に参加させてもらい、地域の方々との交流と連携に努めている。地域の消防団とのつながりもできており、非常災害時に応援、支援が得られる体制ができています。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の自立支援や地域との関係を大切にしたいというホーム独自の理念を職員とともに作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は機会を捉えて、ホームの理念を自分の言葉に置き換えて職員に伝えている。管理者と職員は、地域との連携のあり方などについて話し合い、理念の実践にむけて日々取り組んでいる。		
2 - 2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族の来訪時などに、自立支援や地域の中で暮らしていくことの大切さを伝えている。地域の人たちには、運営推進会議や広報誌「かめさん便り」を通じて、ホームの活動や考え方を伝えている。	○	家族や地域の方がよりホームへの理解を深め、理念の実現に向けてさらなる協力を得られるよう、広報誌「かめさん便り」、運営推進会議、家族会などを通じて、これからもホームの理念や思い、情報の発信へのよりいっそうの取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、地域の住宅地から少し離れた場所にあるが、ホームを夏休みのラジオ体操の会場に提供したり、冬の犀の神やお祭りなどの行事にも積極的に参加し、地域の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人理事、管理者、職員はサービス評価について十分に話し合い、サービスの向上のために評価結果を真摯に受け止め、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、外部評価の報告、具体的な改善などについて適切に報告し、委員から意見も求め、ホームのサービス向上に活かしている。	○	業務の都合などで、2ヶ月に1度の頻度で行われていないことがあるので、行政などの関係機関と連携を保ちながら適切な頻度で実施して欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、電話のやり取りのほかに、地域ケア会議などにおいても意見交換の場を持っており、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6 - 2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人内で行われる高齢者虐待の研修に参加している。復命伝達の場合などで、自分たちの言葉がけやケアが虐待になっていないか検討する機会を作り、お互いに注意し合い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、その都度、本人の暮らしぶりや健康状態などを伝えている。頻繁に来れない家族には、2ヶ月に1度、広報誌「かめさん便り」と一緒に、文書で利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理、職員の異動などを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の氏名と顔写真を玄関に掲示したり、意見箱を設置して、家族が意見や苦情を言いやすくなるような環境づくりをしている。寄せられた意見や苦情は真摯に受け止め、職員皆で検討し、積極的に改善に努めている。		
8 - 2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。会議では職員皆で積極的に話し合い、サービスの質の向上と運営につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職は最小限となるよう努力している。やむを得ず職員が代わる場合は、利用者きちんと伝えることと、職員の引継ぎを丁寧に行い、利用者ストレスやダメージを与えないよう十分に配慮をしている。		
9 - 2	18 - 2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	各種マニュアルが整理され、フロアの見やすい位置に配置されている。見直しも担当職員によって適宜行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修を受ける機会が確保されている。また、日々の実際のケア場面で、管理者、職員の間で個別に指導、トレーニングを行う体制もできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県のグループホーム協会に参加している。また、隣接する市町村のホームと交流し、意見交換や職員の交換研修などを行い、サービスの質の向上に活かしている。		
11 - 2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員のストレス軽減に向けた工夫や環境づくりに意識して取り組んでいる。普段から職員の表情、様子などに気を配り、声を掛けたり話を聞いたりするよう努めている。また、休憩時間は現場を離れて休憩室で取ることができるほか、昼休み時間には交代で外に出ることを許可し、休息や気分転換を図れるようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるよう、ホーム見学してもらったり、職員が利用者宅へ訪問するなどして徐々に馴染みの関係がつくれるようにしている。また、それまでの生活環境や生活習慣などを十分に把握し、ホームでもそれらを取り入れるよう工夫して、家族とも協力しながら少しずつ場の雰囲気や生活に慣れていただけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は目上の人である意識と態度で接している。一緒に過ごしなが、利用者からいろいろな知識を教えていただくことも多く、互いに支え、支えられているという関係が自然に築かれている。		
13 - 2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族にしか担えない役割があることを十分意識して、家族と協力しながら利用者を共に支えていく関係を築いている。利用者の家族への思い、家族の事情を十分に受け止めながら、利用者と家族との絆を大切にし、それを断ち切らないよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の生活の中での利用者のさりげない言葉やしぐさから、一人ひとりの思いや希望を汲み取るよう努め、職員間で共有している。		
14 - 2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族などの訪問時に、利用者本人の生活習慣や生活環境などの情報を聞いている。また、日々の生活の中での本人との会話などを通じて、馴染みの暮らし方を理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、家族の願いなどを大切に担当職員が介護計画原案を作成し、さらに、本人、家族、管理者、関係者などの意見を聞き、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回モニタリングを実施し、計画通りに支援が行われているか検討している。利用者に急な変化が生じた場合は、本人の気持ちなどに配慮しながら、関係者で良く話し合い、現状にあった計画に修正している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な場合の受診の支援、本人の希望があった場合の外出送迎支援、緊急時の隣接デイサービス看護師による医療面での支援など、その時々々の状況にあった支援が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視して、それぞれの医療機関への受診の支援が行われている。受診には原則として家族に同行してもらおうが、困難な場合は職員が同行している。また、緊急時などには往診してもらえ体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に、重度化した場合や終末期まで対応することはホームとして基本的に行わないと家族に説明して了解をいただいているが、その状況が近づいた時には改めて家族・主治医・ホームとが話し合い、本人・家族にとってより良い対応を検討して、個々の利用者の事情や状況に応じた支援をしている。家族、主治医、ホームとの連携・協力のもとで看取りを行ったケースもある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライドを大切にした適切な言葉かけが行われている。個人情報や記録書類の保管は、事務所とフロアの2箇所で行っている。事務所の保管庫では施錠により適切に管理されているが、フロアの保管庫は外から保管書類が見え、施錠もされていない状況である。	○	フロアの保管庫について、誰でも見れてしまう危険性があるため、保管や取扱方法についてさらなる検討が望まれる。
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間は概ね設定されているが、そのほかの時間については、その日をどう過ごしたいか、利用者本人の希望に沿った過ごし方ができるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた野菜の下ごしらえなど食事の準備や後片付けは、利用者一人ひとりの意欲や力を活かして職員と一緒にやっている。また、季節感を取り入れた献立にし、利用者と職員が会話を楽しみながら食事を摂り、食事が楽しい時間となるよう支援している。		
22 - 2	56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、個々のタイミングに合わせた排泄の支援を行なっている。声かけや誘導は周囲の人に気づかれないよう配慮して行なっている。また、もし失敗が見られても本人の自尊心を傷つけないようさりげなく対応している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で決めるのではなく、週数回の方、毎日入る方など利用者の希望や習慣を大切に、入浴が楽しみとなるよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の楽しみや役割、気晴らしなどを日々の活動、会話の中から見つけ出し、生活の張り合いになるよう支援している。食事作り、畑仕事、草取り、笹団子作り、外出、買い物など積極的に支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由にホームの周りの散歩をしたり、畑にでたり、一緒にスーパーに買い物に行ったりと戸外に出る支援が積極的に行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何気ない日々の声かけも行動制限や抑制になっていないか、管理者や職員は常日頃からお互いにチェックし合っている。職員全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を職員は適切に理解し、日中は鍵をかけないケアが徹底されている。		
26 - 2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告、ひやりはっと報告書などを通じて事故防止に取り組んでいる。運営会議の中で再発防止策について職員全体で検討し、実施されている。		
26 - 3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年1回の法人研修で急変、事故発生時の応急手当などの訓練が行われている。急変時の初期対応の方法などもホームで検討されている。	○	利用者の急変や事故発生時は、家族への連絡をまず行うということであるが、医療機関への連絡や救急車の手配などが優先される場合も多い。急変時などの対応方法等について、職員の不安軽減のためにも、法人・ホームで緊急時の対応のあり方を今一度検討し、整理することを望みたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	定期的に消防署立会いで防災訓練を行い、避難方法を身につけている。地域の消防団とも連携しており、非常時には地域の方々の協力が得られる体制ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な食事量、水分量は適切に摂取できるよう支援している。体重減少など特に注意が必要な方には、栄養士、主治医とも連携して適切な栄養管理を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は温かみのある内装であり、和風のこたつ、檜の香りのする浴槽など、家庭的な雰囲気づくりがなされている。落ち着いた明かりや季節感を取り入れた装飾など、居心地の良い環境作りに努めている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みのある物品を居室に持ち込んでもらい、今までの暮らしが継続できるよう努めているが、家族の希望や状況からホームに持ち込む物品や馴染みの物が少なくなる場合もある。	○	利用者一人ひとりの長い人生の中で大切にされてきたもの、大事にしてきた馴染みの小物や家具などが1つでも部屋にあることで、安心感や落ち着きが得られることも多い。本人や家族と話し合いながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに向け、今後も継続的に検討してほしい。